

現代政治の 이슈 (政治学現地研修・福島) 実施報告書

2026 年 9 月 23 日

武田 知己

松本 尚子

2026 年度の「現代政治の 이슈 (政治学現地研修・福島)」では、9 月 7 日から 9 日にかけて、総勢 26 名の参加学生 (体調不良により 1 名欠席) とともに、現地研修を行いました。

<事前学習 1 回目>

2026 年 8 月 1 日(土)10:00~17:30 東松山キャンパス 11-0101 教室

自己紹介 / Fukushima50 等 鑑賞

<事前学習 2 回目>

動画アーカイブ視聴「放射線の基礎知識」

<夏休み課題>

福島民友新聞社連載記事「復興の道筋」の要約と質問作成

■ 1 日目

台風接近による荒天の中、常磐道の一部が通行禁止になった関係から 2 時間遅れで福島入りしました。

最初は NPO 法人海族 DMC 理事長太見洋介氏のガイドのもと、震災遺構である請戸小学校を訪れました。

1 階部分は津波が襲来した生々しい爪痕が残されていました。

ほっと大熊にチェックインして、1 日目は終了しました。



■ 2 日目

午前中は元大熊町町議の松永秀篤氏より講演を賜りました。震災発生前から震災発生当時、そして今の大熊町の変遷をたどった後、質問時間が設けられました。講演会の最後には「これからも大熊町に遊びに来て欲しい」と、松永さんからコメントをいただきました。



午後は富岡町にある東京電力福島復興本社の廃炉資料館を見学しました。その後、東京電力福島第一原子力発電所の視察を行いました。参加者の中には「タイベックなどを着用せず、原発の目の前に立って良いのか」と、衝撃を受けた学生もいました。

夕方からは福島民友新聞社の佐藤氏、国分氏と海族 DMC の太見さんを交えてディスカッションを行いました。その後は、ほっと大熊のラウンジで、2 日間の感想を語り合いました。



■ 3 日目

最終日は東日本大震災・原子力災害伝承館と中間貯蔵施設を訪れました。

伝承館では、短い滞在時間のなか、映像資料や展示資料、語り部の方との対話を通して、原子力災害がもたらした影響を学ぶことができました。

その後に訪れた中間貯蔵施設は、丁寧なガイドをいただきながら、原発事故によって発生した除染土の現在と今後について教えていただきました。放射線測定器を実際に使い、除染された土とそうでない土の両方に近づけて「除染されていない土の方が線量が高い」ということを自分の目を見て、確かめることができました。



帰りのバス車内では、参加者一人ひとりが感想を述べ、「正しい知識を伝えていきたい」「友人にも教えたい」「また福島に足を運びたい」という前向きな感想が多くありました。

■ 参加学生の感想の一部を紹介します(コメントは原文のまま引用しています)。

- 私は3年間継続して福島県浜通り地域を訪れていますが、訪れるたびに新たな学びを得ています。毎年、「復興は道半ばである」という言葉を耳にします。しかし、自分の目で確認したことで、復興には時間がかかっている一方、確実に進んでいる部分もあることを改めて実感しました。
また、今回の研修を通して、復興を単純に「インフラが整ったか」「人口が戻ったか」といった数字や目に見える変化だけで捉えるのではなく、そこに暮らす人々がどのような思いを持っているのかという視点が重要であることを学びました。特に、「帰らない理由」という松永さんの言葉には、これまでの自分にはなかった新たな視点でした。原発事故によってコミュニティが分断された地域であるにも関わらず、前向きに生きている浜通りの方々から、私は毎度大きな刺激と元気をいただいています。今後も福島を訪れ、復興の過程を自分の目で見続けるとともに、そこで暮らす人々の声を聞き、自分に何ができるのかを考え続けたいと思います。将来、教員として生徒に福島について伝える際にも、現地で実際に見聞きしたこと、復興の進展と課題の両方を伝えられるようになりたいと考えています。
- この目で3・11のその日に起きた惨状を詳しく見て、実際に震災にあった人の話が聞いてみたかったのでこの研修に参加した。参加したことで、東日本大震災を身近に感じ、まず実際に見聞きして現状とその日に起こったことが間近で知れたのは本当に良かった。東日本大震災・原子力災害伝承館で実際に浪江町に住んでいた職員の人が話しかけてくれて、今自分がよく歩いていた町並みを取り壊されて新しく再開発され、知っている街が知らない街になるけれど、メディアはそれを復興だと取り上げるというのを聞いた。この話とこの3日間で学んだことも含め穿った視点という訳ではないけれど、メディアが取り上げていることだけが全てではないことを実感できて、今までと違う視点でこの3.11や原発、復興に関してのニュースとか政府のこれからの活動を見られるようになるのも良い経験になったと感じている。
- 請戸小学校を見られたことは私の中で大きい出来事だった。普段ただ過ごしているだけだと、東日本大震災の出来事は他人事でどこか遠く感じてしまっていた部分があった。けれど、実際に津波で荒れ果てた校舎を見て他人事が自分ごとになったような、そこであった事を身近に感じる事ができた。その時そこにいた人々の辛さや悲しさを自分で考える範囲ではあれど感じる事ができたことが言ってよかったと感じることの一つである。

○ これまで原発事故については映像等を通して学ぶことが多かったが、実際に現地を見ることで、事故が起きた場所をより身近なものとして感じることができた。廃炉の状況や ALPS 処理水についての説明も受け、今まで資料等で理解したと思っていたことも知識不足であったことを痛感した。また、見学は気軽に私服で参加することができ、この事は着実に復興が進んでいる証明だと感じた。

■ 最後に

福島を訪れる現地研修は、来年度(2027 年度)はお休みします。個人で参加できるツアーを紹介できるようにしたいと思いますので、ご期待ください。